

2月5日（月）全校朝会

まず初めに元気よく朝の挨拶をしましょう。おはようございます。

皆さんは、駅伝というスポーツを知っていますか。体育の授業で行うリレーの長い距離バージョンのようなものです。リレーよりも一人の走る距離が長く、バトンの代わりにタスキを受け渡します。お正月に箱根駅伝が行われていましたので、テレビで見た人もいないでしょうか。その駅伝が、先週調布市でも行われました。上ノ原小学校も2チームエントリーして、10人もの先生方が走ってきました。校長先生もメンバーの一人として参加したのですが、この駅伝を通して感じたことが2つありましたので、今日はそのお話をします。

一つ目は、「応援の力」です。駅伝は、タスキをつなぐとは言っても走っているときは一人ですので、自分との戦いとなります。疲れてくると走る速さは遅くなるし、もう歩きたい、休みたいという気持ちになってきます。しかし、そんなとき「ファイト!」「もう少しだぞ」「がんばれ!」と応援されると、不思議と力が湧いてくるのです。さっきまであんなに疲れて「もうダメだ…」と思っていたのに、応援の声を聴くと、「よし頑張るぞ」という気持ちになって、実際に力がみなぎり、またスピードアップできるのです。つくづく、応援の力ってすごいなと感じました。ですから、校長先生も他の先生が走っているときは全力で応援しました。



二つ目は、駅伝大会で見かけたちょっといい場面の話です。あるランナーが前の走者からタスキを受け取り走り出した後、そのタスキを体にかけてしようとしたときにタスキを落としてしまいました。結構スピードが出ていますから、タスキを取りに行くには、一度止まって戻らないといけません。「あぁっ、これは結構なタイムロスになってしまうな」と思ったときです。後ろを走っていたランナーが立ち止まってそのタスキを拾い上げ、渡してくれたのです。タスキを拾ったランナーにしても、そんなことをすれば当然自分のタイムに影響が出てしまいます。無視して走ったとしても誰も責めることはないでしょう。しかし、その選手は当たり前かのようにタスキを拾い、手渡していたのです。その姿を見て、なんだか私までうれしい気持ちになりました。素晴らしいランナーだなと思い、よくよくその選手を見てみると、なんと、上ノ原小学校の芦沢先生でした。芦沢先生素敵ですね。

今日は、先週行われた調布市の駅伝大会を通して感じた二つのこと「応援の力」と「困っている人を助ける行動」についてお話しました。お話を終わります。